

令和5年度 磐田市立福田中学校 学校評価書

A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
関わり合った学びを続ける生徒	<p>①生徒が学習に向かう意欲が高まるような学習課題を立てることで、主体的な学びの機会となるようにする</p> <p>②学んだ知識や技能を対話によって関連付けることを通して、課題解決のための深い学びができる授業展開を工夫する。</p> <p>③家庭学習の望ましい取組を指導し、家庭との連携に努め、習慣化と確かな知識・技能の定着のための支援を行う。</p>	<p>・他の生徒や教師と関わり合いを持ち、課題を解決している。 75% →89%</p> <p>・課題を自分事として捉え、課題解決に向けてじっくり取り組むことができる。 75% →88%</p>	C	<p>○魅力のある学習課題となるように工夫したりICT機器を積極的に活用したりしたことにより、生徒が授業内容について今まで以上に興味を持つようになってきた。また、調べ学習や教え合い学習において、主体的な学習態度が見られる。</p> <p>○知識や技能の習得のために生徒同士の対話的活動を積極的に取り入れ、深い学びができる授業が増えた。</p> <p>※学んだ知識や技能を用いて考えを表現することに苦手意識がある生徒が多い。授業者が導くことで、課題解決に向かうことができつつある。</p> <p>※家庭での学習習慣に個人差があり、授業で学んだことの定着が図れていない。家庭と連携して学習の習慣化を目指していく。</p>	
協力する生徒	<p>①「生徒の計画と教師の支援」→「生徒の実践」→「生徒・教師の振り返り」のサイクルを継続し、生徒の取組の過程を認め、褒めたり改善させたりする指導を行う。</p> <p>②生徒会や委員会活動、部活動、学校行事を通して、生徒の話し合い・練習の場を設定し、生徒が活動について深く考え、主体的に取り組むことで、活動後の達成感を高める。</p> <p>③3部の連携を図り、エンカウンターや人間関係づくりプログラムなどの活動を通して、生徒一人一人の理解を深め、互いのよさを認め合う雰囲気・場面づくりを充実させる。</p>	<p>・生徒会や学級活動、学校行事の目的を理解し、掲げた目標に向かって仲間と協力しながら取り組むことができる。 90% →92%</p>	A	<p>○生徒が主体となって学級や生徒会の活動を運営していくことができるよう、学級担任や専門委員会担当者が意識して取り組んだ。</p> <p>○学校行事や部活動においても、生徒同士による話し合いの場を設定し、活動について考えたり振り返ったりすることができたため、生徒は大きな達成感や充実感を得られた。</p> <p>※人間関係が成熟しきれていないため、いざこざやトラブルが見られたが、生徒指導主事をキャップとして早期発見・早期解決を目指した取組ができた。</p>	

<p>自身を鍛えて行動する生徒</p>	<p>①目標を見える化し、PDCAサイクルを確実に行うことで、継続して挑戦し、努力する習慣を身に付ける。 ②「はまぼうチャレンジタイム」を計画的に実施し、生徒の自己肯定感やレジリエンスを高めるための指導・支援を行う。 ③3部の連携を図り、エンカウンターや人間関係づくりプログラムなどの活動を通して、生徒一人一人の理解を深め、互いのよさを認め合う雰囲気・場面づくりを充実させる。</p>	<p>・目標をもち、達成に向けて努力し続けたり、あきらめずに挑戦し続けたりしている。 80% →86% ・自分や友達を認め、互いに尊重し合うことができる。 80% →95%</p>	<p>B</p>	<p>○学校生活における目標を設定して掲示したりキャリアパスポートに記入したりして、目標を意識して取り組めるようにした。 ○教育相談において生徒個々の理解を深め、日々の指導に生かすことができていいる。Web相談窓口の開設も行った。 ○コミュニケーショントレーニングを計画的に実施し、「相手に伝わる話し方」や「うなずきながら聴く」等の生徒の表れを見付け、肯定感が高まる手立てにつなげることができた。 ※失敗や挫折を感じたときに立ち直ることができるレジリエンスの強化を目指したよりよい方法を研修して取り入れていく。</p>	
<p>を「誇りが持てる福田中学校」</p>	<p>多様な視点で生徒のよさを見つけ、認め、価値づけする声掛け（ボイスシャワー）を充実させる。</p>	<p>自分のよさを生かし、一歩前に出てチャレンジしようとする気持ちを持つことができる。 85% →85%</p>	<p>B</p>	<p>○生徒会が企画した清掃やあいさつのボランティア活動に多くの生徒が参加し、積極的な姿勢が多く見られた。 ○学校行事や部活動において、仲間と協力して取り組むことのよさや充実感を味わい、自分の存在価値に気付くことができた生徒もいた。 ※自分の役割を果たすことや友達を思いやる行動が学級や学年、学校の雰囲気を高めていることに気付くことができる手立てを講じていきたい。</p>	

学校関係者評価を受けてのまとめ

(学校関係者評価委員の評価を受けて、あらためて記述します。)